作業療法士への取材

小児分野で関わる事のやりがいと魅力について

佐々木　愛理 氏（須崎くろしお病院）

取材者の思いと目的

私は、回復期と生活期の分野に従事し、主に高齢者に関わっています。小児分野に興味はありますが、経験したことがないため、どのような作業療法をしているのかあまり理解できておらず、周囲からも同じような声を聴くことがありました。
そこで、今回、佐々木氏へ取材し、作業療法や子どもへの関わりなどのお話を伺い、小児分野へ興味がある会員の皆様の一助となればと思い取材させていただきました。

青　木　**Q** 小児分野に進もうと思ったきっかけを教えてください。

佐々木 氏　**A**

養成校の長期実習で小児分野の施設に行かせていただく機会がありました。
その際に、子ども達が成長していく姿をみることができ、私も作業療法士として「子どもの成長の役に立ちたい」「成長を一緒に感じていきたい」と思った事がきっかけです。また、遊びの中にリハビリテーションを取り入れているので、とても楽しそうな雰囲気だったのも小児分野に惹かれたきっかけです。

青　木　**Q** 須崎くろしお病院でどのような方に関わっているのかを教えてください。

佐々木 氏　**A**

当院は、小児から高齢者の幅広い年齢層の方々を対象としています。私自身、６年目になりますが、就職して直ぐに小児分野へ配属となったのではなく、回復期や急性期病棟で経験させていただき、３年程前から子ども達に関わっています。小児分野では、外来と放課後等デイサービス（３日／週、午前中～夕方）で勤務し、主に協調運動障害、注意欠如・多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）、診断がついてはいませんが不器用児と呼ばれる子ども達へ関わっています。

青　木　**Q** 小児の方へ実施している評価や、どのような対応課題を抱えているのかを教えて下さい。

佐々木 氏　**A**

評価内容は、日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査（JMAP）、感覚発達チェックリスト（JSI-R）、日本版感覚プロファイルなどを実施していますが、特に自宅や学校での様子、生活場面での活動・行動面の評価を大事にしています。実際に課題となっていることや親御様から言われることは、「お箸や鉛筆の持ち方」「字が書けない」「授業についていけない」など様々です。また、子どもは成長もあり、会うたびに心身状況の変化が起きているため、その都度、眼球運動や姿勢などの心身機能面の変化、活動・行動面を再評価しています。

青　木　Q 関わる際に大切にしている視点や工夫を教えてください。

佐々木 氏　A

子どもに「楽しい」「また来たい」と思ってもらえるよう、遊びを通じたプログラムを立案するようにしています。治療の時には、苦手な感覚（訓練）を取り入れる事も多いです。その際には、その日のプログラム内容を一緒に確認し、スモールステップ（目標を細かく分け、簡単な内容から少しずつ達成していく）で訓練を実施して失敗する回数を少なくし、成功体験を多く取り入れるように心掛けて関わっています。“苦手な事の後には、好きな遊び（訓練）がある”など、子どものモチベーションを高めることも大切にしています。結果がうまくいかないこともありますが、その際には過程の行動を褒めるようにしています。また、子どもが好きなアニメや流行っている言葉遣いを取り入れてコミュニケーションをするようにしています（^^）

子ども達と夏休みに行った集団活動に関して、皆で新聞作成をしました。

青　木　Q 会員へのメッセージをお願いします。

佐々木 氏　A

会員の皆様の中には、小児分野は、「高齢者と子どもでは関わり方が異なる」と思われている方がいらっしゃるかもしれませんが、そのようなことはないと思います。私は、小児でも高齢者でも関わる際の視点や考え方にはそれほど差がないと感じています。特に小児分野は、子ども達と一緒に訓練を楽しみながら、成長を感じられる魅力があります。子どもが好きな方、子どもに興味がある方ならどなたでもできると思います。この記事を読まれて、少しでも小児分野に興味をもたれた方がおられましたら、子ども発達支援部が行っている勉強会や外部専門家を活用した支援体制充実事業（巡回相談）への参加をよろしくお願いします。是非とも小児分野への参画をお願いいたします（^^）

取材・文責：広報編集部　青木　拓夢（いずみの病院）

【取材を終えての感想】

今回、取材をさせていただきました佐々木氏は、小児以外の分野も経験され、作業療法の視点や関わり方の幅が広いと感じました。取材時の佐々木氏の、「楽しいと思ってもらえるよう、次も来たいと思ってもらえるように関わっています」という言葉が特に印象に残っています。分野や年齢に関係なく、様々な方と接する際にとても重要なことだと改めて感じました。

私自身、医療領域で主に高齢者の方に関わっており、小児分野の経験はなく、小児分野となるとイメージしにくい部分がありました。佐々木氏からのお話を伺う中で、支援を考える大変さはありますが、子どもと一緒に楽しめて、成長を感じることができるなど、小児分野ならではの魅力があると感じました。成人や高齢者と小児の考え方は大きく変わらず、様々な経験をすることで、視点や関わり方の幅が広がると感じました。

感想執筆／取材同行者　広報編集部
森　祐輔（だいいちリハビリテーション病院）